

# 造林関係事業 8年間無災害を達成して

新城営林署新城担当区 森田 比 利  
芦 沢 完

## 1. はじめに

新城営林署の造林関係事業においては、昭和51年12月17日に災害が発生して以来無災害を続けており、昨年12月17日には8年間無災害、75万時間の記録を達成することができました。造林事業在籍の基幹作業職員は多い時で40名、現在30名ですが、冬期間においては北部の営林署から署間流動で毎年12～25名程度の基幹作業職員を受け入れており、生産事業からも事業間流動化で植付、除伐等の作業に年間500～1,000人程度受け入れて事業を実行している中での記録であり、非常に貴重な記録だと考えております。

署として、8年間無災害を一つの区切りに今までの安全活動を振り返り、今後より充実した安全活動を推進していくための資料としてまとめてみました。

## 2. 安全活動の内容

年度別の災害発生数の推移は図-1のとおりですが、署全体の年平均件数をみると34年度から51年度までは9.0件に対し、52年度以降は1.7件に、造林事業では同じく2.0件に対し0件となっており、災害が激減しています。これは発生件数だけでなく、度数率をみても同じ傾向になっており、造林事業はもとより、署全体としても安全面で著しい成果をあげているといえます。(図-2参照)

安全活動として特に目立ったことを実施してきたわけではありませんが、安全は日々の地道な積み重ねであるという考え方にたち、各重刃物の柄のスペリ止めにみられるような、小さな工夫を含めた、考えた作業の実施、新勝鎌の砥ぎ台など過去に考案されたものの定着化の努力、安全懇談会及びTBMの効率的な実施による自主的安全活動の推進、はっきり注意しあえるチームワークづくりなどに心掛けてきました。また、300事故の摘出及び安全日誌の記入努力により、「見る」「聞く」「安全に、」「書く」「安全が加えられ、安全に対する意識が高まってきたと同時に現場と署のパイプが太くなってきたことも成果の一端をになっているものと考えます。

## 3. 安全に対する意識調査

現在造林事業に携っている基幹作業職員が、安全に関してどのような意識を持っているのか、

全員を集めた安全祈願祭において調査してみました。

(1) 「どうして8年間無災害を続けてこれたと考えますか」

上記のテーマにつき、自由な発想による意見を求めKJ法的な取りまとめをしました。以下個々に内容をみると、

ア よいチームワークで内容ある話し合い

チームワークが良かったからという意見が全体を通して最も多くありました。勿論、話し合いもよいチームワークがあってこそ成果があがるものと考えます。

イ 日々新たな気持ちで

敬虔な気持ちで仕事に向かい、常に初心に帰って一口一日を大切に生きるという姿勢が、安全面でもチームワークの面でも重要であるということがうかがえます。

ウ ケガをすると他人にも迷惑をかける

ケガをすれば実質的なマイナス面もさることながら、よい意味の安全競争の点から、安全を班全体のものとしてとらえていることがわかります。

エ 決めたこと決められたことは守る

安全に対する意識が高くなり、各自が安全基準等をよく守るようになったことは安全上最も重要なことであると考えます。

オ 手元・足元に注意

造林事業は面の作業であり、手元・足元に注意することにより、造林事業でほとんどを占める行動災害を防ぐことになると考えます。

カ 作業の変り目、危険箇所は特に注意

要所要所では、TBMをていねいに実施するなど、心がまえをしっかりとってから作業にかかることが必要と考えます。

キ あせらず、あわてず、キチンと行動

行動災害を防ぐ上で、ゆとりを持ち、よく周囲の状況を判断してから行動することは基本的なことと考えます。

ク 刃物、道具は凶器になる

造林事業においては、鋭利な刃物や道具を毎日使っているため、スベリ止め、柄の長さなどについて工夫をしながら、正しい使用方法でていねいに扱っていくことが必要ということがいえます。

ケ ケガは自分持ち、自分の身体は自分で守る

自分や同僚の過去の災害を見聞きして、災害のこわさが身につけている人は、自分の身体は自分で守るという意識が強いことがわかります。

コ 健康な身体がもとで

何をするにも、健康な身体が資本であることは当然のことと考えます。

(2) 安全活動の実施状況

毎年度、署の安全衛生活動実施要領が全員の意見を聞いたなかで定められていますが、その重点項目のいくつかについてどの程度実施されているかをアンケート調査によりまとめたものが図-4です。内容は決して十分といえない状況にあります。

ア TBMについて

これは毎日実施するのが当然のことですが、それが80多と少ないのは、TBMの意味をはっきり理解していないことも一因と考えます。

イ チームワークについて

皆んながチームワークのよいことを切望しており、ほぼ全員がチームワークをよくするよう努力しておりますが、現実には必ずしもうまくいかないということがわかります。なお一層の努力が必要と考えます。

ウ 安全当番、補助員である安全推進員は役目を果たしているか

補助員である安全推進員は主任と基職の間に立ち、より安全面における潤滑油としての行動が必要と考えます。

エ 安全衛生委員会の内容を承知しているか

まずまずの結果となっておりますが、現場と署とのパイプという面から、安全衛生委員会で決定した事項だけでなく、その雰囲気や現場へ伝えると共に現場の意見を安全衛生委員会に反映させることが大切と考えます。

#### 4. ま と め

8年間無災害達成という大きな記録を残せたことにより、努力をすればできるという自信を得ることができました。しかしながら、アンケート調査にみられるように班のまとまりは万全でなく、TBM等についても決められたことが十分守られていない現状もみうけられます。

今後の方向として、次の5項目を重点事項に、今までの良い点は伸ばしながら不十分な点を補完していき、次の目標を10年間において無災害記録を続けていきたいと考えています。

- (1) 決めたこと、決められたことは確実に守る。
- (2) 明るい班づくりと、TBMの確実励行
- (3) 安全当番、安全推進員の積極的活動
- (4) 安全日誌の有効活用及び300事故の摘出
- (5) 交通災害の防止

図-1 新城営林署の年度別災害発生件数

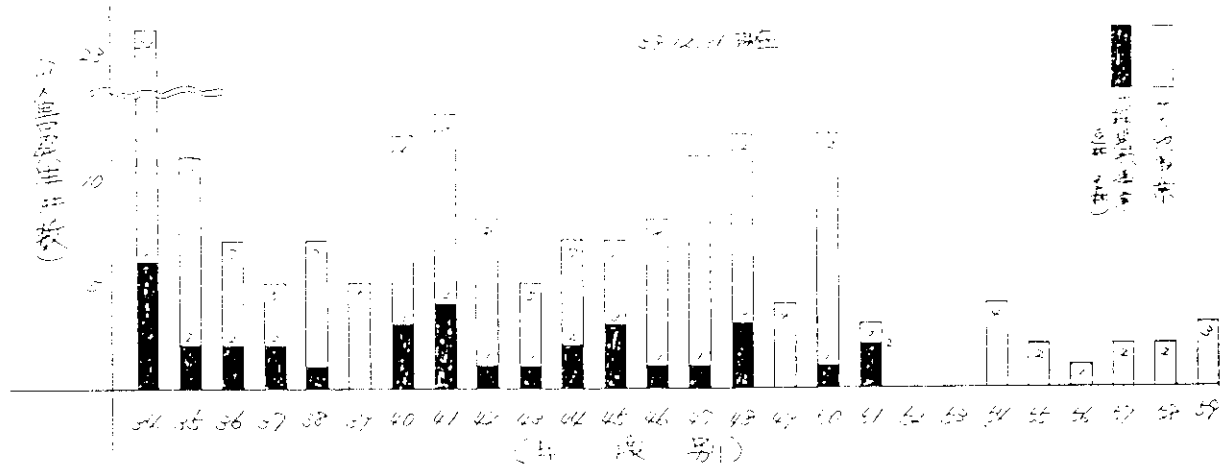


図-2 担当区別無災害継続期間

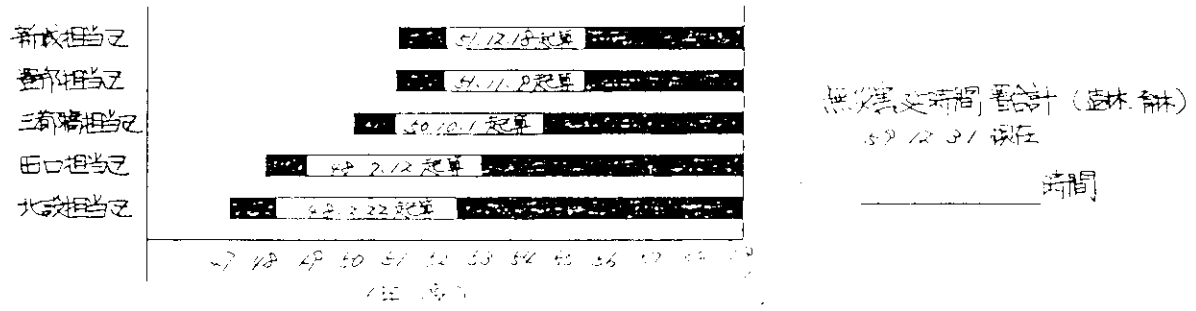
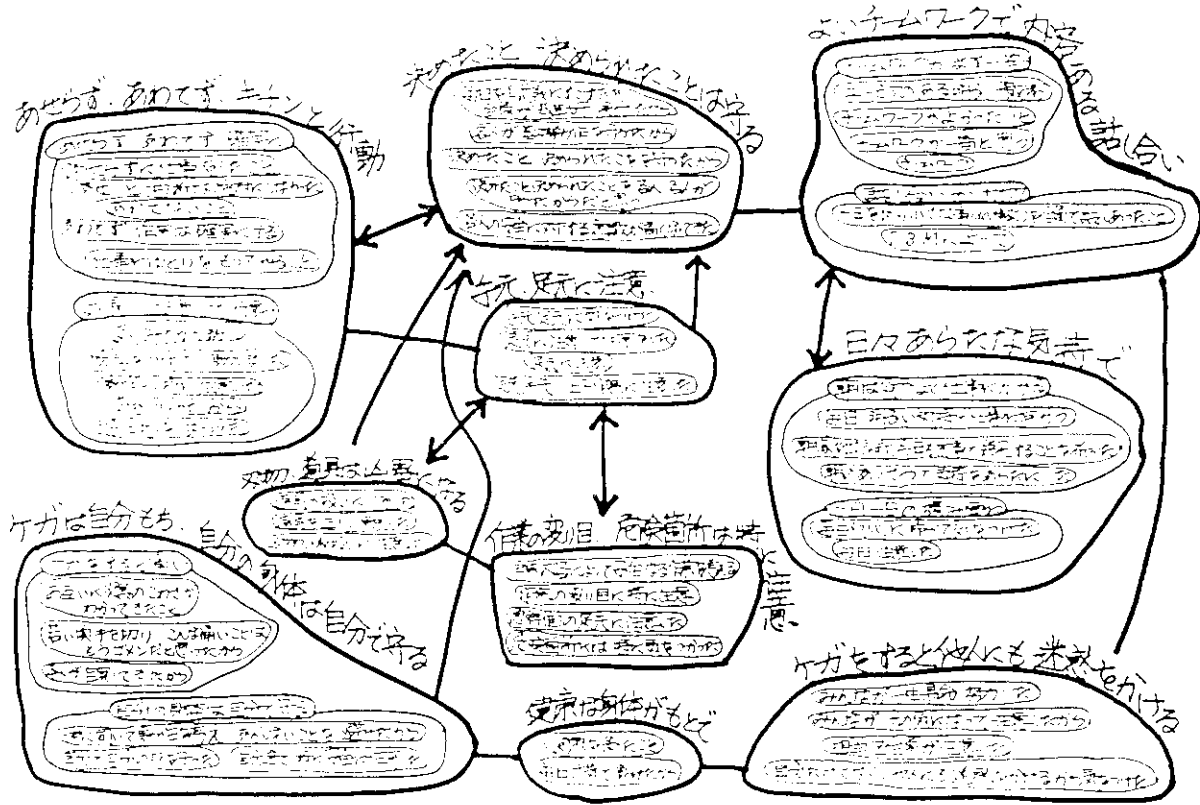


図-3 どうして8年間無災害を続けてこれたと考えますか。

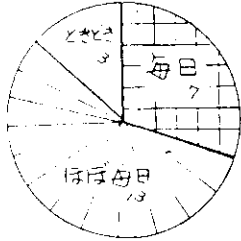


結論：各々が(まじり)対策の決りかたことよりから

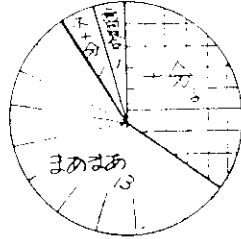
図-4 安全活動の実施状況

無回答が10%以上

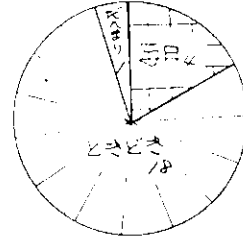
(1) TBMを毎日実施しているか



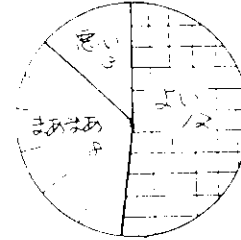
(2) TBMの内容は十分か



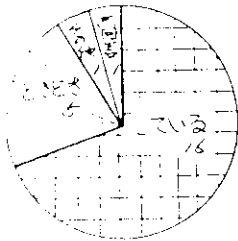
(3) TBMその発言は



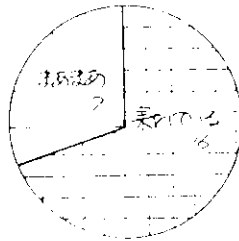
(4) チームワークはよいと思うか



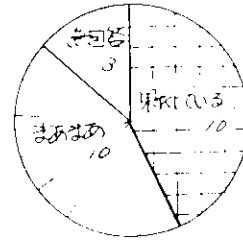
(5) チームワークをよくする努力をしているか



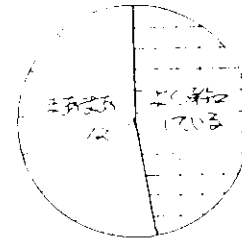
(6) 安全当者は役割を果たしているか



(7) 経験のある安全作業員は役割を果たしているか



(8) 安全衛生委員会の内容は検討しているか



果たしていない 0

果たしていない 0

果たしていない 0